

信州 木曾 あげまつ

SHINSHU KISO AGEMATSU TOWN



小野の滝



寝覚の床



赤沢自然休養林 赤沢森林鉄道

I N F O R M A T I O N

木曾路周辺の観光

四季折々、素晴らしい自然が待ち受けるリゾート、
国宝・重要文化財、歴史ある名所など信州には人気観光スポットが盛り沢山。
上松までの旅行計画にプラスして木曾路周辺の魅力をたっぷり満喫してください。

上高地(松本市/※車で2時間30分)
松本城(松本市/※車で1時間30分)
小矢部砺波JCT
金沢東I.C.
至福井
金沢
飛騨清見 I.C.
御岳ロープウェイ(木曾町/※車で1時間)
美濃関 JCT
木曾馬の里(木曾町/※車で30分)
至京都・大阪
名古屋I.C.
豊田I.C.
豊田東JCT
浜松I.C.
静岡I.C.
松本I.C.
富山I.C.
北陸自動車道
白馬
糸魚川I.C.
北陸新幹線
上越I.C.
至新潟
長野I.C.
更埴JCT
塩尻I.C.
岡谷I.C.
伊那I.C.
駒ヶ根I.C.
飯田I.C.
飯田山本I.C.
園原I.C.
中津川I.C.
飯田I.C.
東海自動車道
上信越自動車道
上越新幹線
藤岡JCT
高遠(伊那市/※車で1時間10分)
練馬I.C.
東京I.C.
東京
天竜川(伊那市/※車で1時間)
諏訪湖(諏訪市/※車で1時間30分)
白馬三山(白馬村/※車で2時間30分)

※は上松から各観光地までのおよその所要時間です。

上松町への交通案内

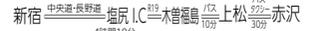
■電車 (JR) ご利用の場合



■車で利用の場合



■高速バスご利用の場合



お問い合わせ

(一社)上松町観光協会

〒399-5601 長野県木曾郡上松町大字上松159-3
TEL.0264(52)1133 FAX.0264(52)4180
上松駅前観光案内所 TEL.0264(52)4820
ホームページ ● <https://kiso-hinoki.jp/>

ひのきの里上松町
公式サイト

@taroh_agematsu

@akasawaforest

YouTube



木曾観光連盟事務局 〒399-6101 長野県木曾郡木曾町日義木曾文化公園内 TEL.0264(23)1122
銀座NAGANO観光情報センター 〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-5 NOCOビル2階 TEL.03(6274)6017
長野県名古屋観光情報センター 〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-36 久屋中目ビル4階 TEL.052(251)1441
長野県大阪観光情報センター 〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階 TEL.06(6341)7006

(一社)上松町観光協会

NAGANO



上松町キャラクター「太郎ちゃん」と「美林ちゃん」



ほおば巻きの妖精「ほおちゃん」



Contents

- 檜の里あげまつ 1
- 赤沢自然休養林 3
- 木曾ひのきの森 8
- 寝覚の床散策 9
- 中山道・上松宿 13
- 木曾駒ヶ岳登山 17
- 木曾古道 21
- 祭り郷土の芸能 23
- 上松伝承の物語 25
- あげまつ匠の技 27
- 宿と手作り弁当 28

■ 本誌中の[D-2]などは、折込イラストマップの位置に符合します。



木の国、美林の里。

旅心に微笑む

ふるさとの路。

幾つもの山ひだに囲まれ、

深い緑をたくわえた木の国、上松町。

木曾川沿いに開かれたこの美しいふるさととは、

古くは中山道、木曾十一宿の旅籠として栄え、

そして尾張藩の厳格な森林保護のもと、

木曾木材の中心地として名を馳せ、

今日まで多くの物語を紡いできました。

木の香漂う道をたどれば、

そこは絶え間なく変わりつつけながら、

幾百年の懐かしさを宿す日本の原風景。

水うるわしい豊穡の美林が安らぎを奏でていきます。

旅心を誘ってやまない木曾谷、

繊細な表情を見せる小さな時間のなかへ。

上松町は美しい安らぎをあなたに贈ります。

森林浴発祥の地 赤沢美林

日本三大美林のひとつに数えられる赤沢自然休養林、樹齢三〇〇年、雄大な木曽檜の世界。

[D-2]



Akasawa Recreation Forest

清冽な大地を歩き、 生命の息吹に触れる感動。

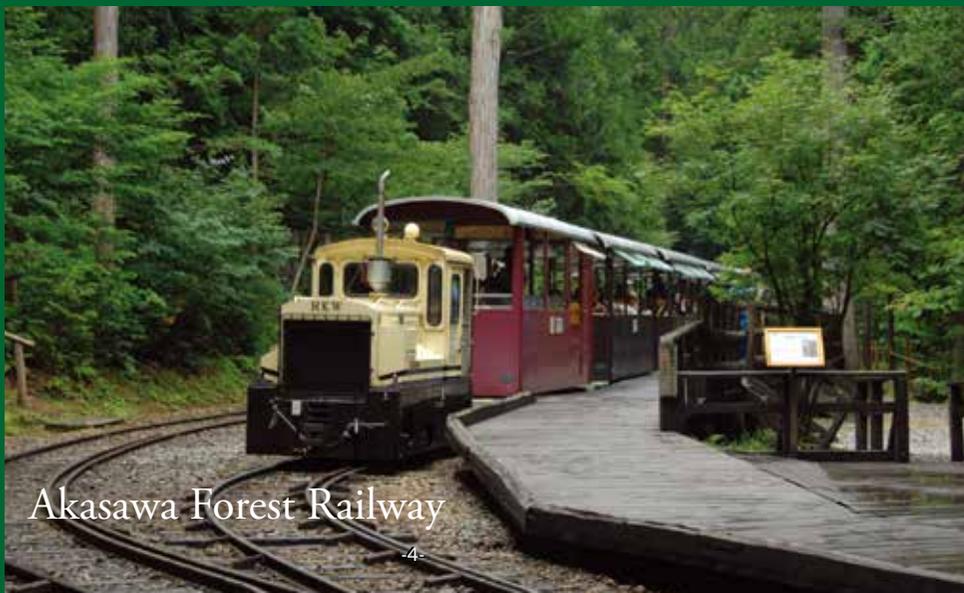


若緑がまばゆい春、林間の涼風に安らぐ夏、そして紅葉に彩られる秋。威风堂々の檜の大樹が、神秘の生命力を山に響かせています。尾張藩の保護のもと、三百余年にわたって大切に守られてきた赤沢自然休養林は、林内に七つの遊歩道コースが伸びる深閑の森。小径をたどれば、溪流にはイワナやアマゴの姿、清々しい水音、鳥のさえずりや可憐な草花に出会うことができます、心を休ませることができます。

赤沢自然休養林は、木曽の山と木と人、歴史と文化に触れることのできる森。かつて木曽谷で活躍していた森林鉄道が、当時の車両をそのままに、檜の森を走っています。緑の風を浴びて走る開放感は、たまらない爽やかさ。子供広場や、森の不思議や歴史に触れる資料館などの施設も備えられ、体験と学習、レジャーを一度に楽しむことができます。



森林鉄道



Akasawa Forest Railway

かつて木曽谷の山林で活躍した鉄道。車窓を駆けてゆく森と溪流の情景、清々しい風。

赤沢自然休養林 散策

世界的にも貴重な天然櫛林は、青森ヒバ、秋田スギとともに日本三大美林のひとつに数えられ、森林浴発祥の地としても知られています。気軽に散策観察が楽しめる施設が整えられ、「二十一世紀に残したい日本の自然百選」、「森林浴の森日本百選」、「かおり風景一〇〇選」などに選定され、「森林セラピー基地」にも認定されました。



遊歩道 Walking trail
鳥の歌、溪流の響き、大樹や草花との出会い。散策では観察とリフレッシュが気軽に楽しめます。



トムソーヤクラブ村 Tom Sawyer Club Village
毎年夏の開催の自然体験村。木工教室など多彩なイベントプログラムが好評です。



森林資料館 Forest Museum
木曾谷の林業の歴史、木曾五木や野鳥など赤沢の自然を、貴重な資料・文献・写真などで紹介。



森林鉄道記念館 Forest Railway Museum
木曾谷で60余年にわたって活躍した森林鉄道。当時の車両や器具、道具、資料を保存・展示。

森林セラピー基地 赤沢自然休養林

「森林セラピー®」とは、「森林の地形や自然を利用した医療・リハビリテーション、カウンセリング」また、「森林浴、森林レクリエーションを通じた健康回復・維持・増進活動」のことを意味します。森林セラピー®の研究では、森林浴を行うことにより森林の樹木が発散するフィトンチッドによって免疫力をつかさどるNK細胞が活性化し、抗がんタンパク質の濃度が上昇し続けるなどの効果が明らかになってきています。現代のストレス社会において、森林浴や木材がもたらす生理的・心理的リラックス効果や、免疫力向上への期待が高まっています。



セラピー体験館
簡単な健康相談や森林セラピー効果測定が受けられる「森のお医者さん」を開設。(5月から10月末までの毎週木曜日/保健師・看護師は水曜・金曜日)



伊勢神宮御用材 御神木

御杣始祭
Misomahajime Ceremony
古くから伊勢神宮の御用材として管理された赤沢美林。20年に一度の遷宮行事・御杣始祭にあわせ、選びぬかれた御神木を斧(ヨキ)を使い三ツ紐伐り(みつひもぎり)の技法で伐採される。



平成17年(2005)御杣始祭の様子



昭和60年(1985)伐採跡地

美林を駆ける 森林鉄道

[D-2]



森林鉄道 Forest Railway
ディーゼル機関車に引かれた客車が、赤沢美林内を運行しています。
ボールドウィン号 The Baldwin locomotive.
大正5年から昭和35年まで、42万キロを走り抜いた蒸気機関車。古き良き時代の実車が展示されています。1号機は製造から1世紀を経ており、近代化産業遺産・林業遺産にも指定されました。

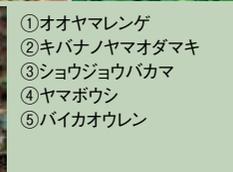


NPO「木曾ひのきの森」

NPO法人「木曾ひのきの森」は赤沢自然休養林をベースに、森林資源の大切さ、素晴らしさを守り伝える活動を行なっています。

赤沢自然休養林で、森林散策のご案内を行います。

水を蓄え酸素を生み出す森林資源、とても大切な財産です。この自然の大切さ、木々や花々の美しさなどを、林業と共に生きてきた木曾の歴史を交えながら案内します。



- ①オオヤマレンゲ
- ②キバナヤマオダマキ
- ③ショウジョウバカマ
- ④ヤマボウシ
- ⑤バイカオウレン

木曾五木

森林浴を楽しみながら木曾を代表する五木の名即特産を覚えましょう。



ヒノキ(ヒノキ科)
先のとがらないウロコ状の葉が対生密生。「ネズコ下駄」はこの木が白色をしている。



サワラ(ヒノキ科)
小さなウロコ状で、葉の先がとがっています。耐湿性に富み、桶や曲物の材料に使用される。



ネズコ(ヒノキ科)
別名クロベ。葉はウロコ状でヒノキよりは大きめ。「ネズコ下駄」はこの木が原材料となっている。



アスナロ(ヒノキ科)
別名ヒバ。ウロコ状の葉は広く大きいのが特徴。狂いが少なく建築材に適している。



コヤマキ(コヤマキ科)
葉は細長く、多数輪生しているのがポイント。水に強く船や風呂桶の材料に使用されている。



森林環境の保全を行なっています。

「木曾ひのきの森」では、森林資源の保全を両立するための活動を行なっています。遊歩道には、木材から出たヒノキの樹皮を敷き詰め、踏圧による被害を抑制。また雨水で流出した土砂を補完します。さらに、生態が衰えた植物を保護する活動も行なっています。



学習、保護活動を進めています。

木曾の森林には、多くの植物が分布しており、赤沢エリアには約五百種類に及びます。「木曾ひのきの森」では、案内活動に必要な知識のほか、保護活動に欠かせない法規や希少種の学習などを行なっています。

赤沢美林ご案内のご相談・お申し込みは、下記 上松町観光協会まで。

TEL 0264-52-1133

中央アルプス国定公園に指定(二〇二〇年二月)

寢覚の床

【C-4】



白々とした大岩・奇岩が並びたち、
その底に翠緑の水をたたえる木曾の名勝。
かつて木曾川を流れる満々の水、渦を巻く激流、はじき飛ぶ礫が
歴史を刻むように磨いた木曾川の造形は、
今も昔も、しばし旅人の感嘆と安堵を呼び起します。

歴史・伝説にふれる 憩いの溪谷 寝覚の床

木曾川の四季に佇み、自然に癒される時。アトや歴史の余韻も心に流れて。昔からどれほど多くの旅人がこの風景に足を止め、しばし岩と水の不思議な美に見とれたことでしょう。今でもこの景勝の地はアトな安らぎと、歴史・伝説にふれる憩いの溪谷。深い時が季節のなかを悠々と流れています。



木曾八景 ● 寝覚の夜雨

寝覚の床 Nezamenotoko

浦島堂の小さな祠が祀られる寝覚の床の大岩群の上へは岩づたいに登ることができ、木曾八景の幻想的な風景が間近に眺められます。



雪の寝覚の床 Nezamenotoko snow scenery

厳しい冬の雪化粧も寝覚の床の魅力です。周囲の木々が綿帽子のような純白の雪を纏い、大きな岩の間を縫うように紺碧の冬空を映す木曾川の流れは、まるで一幅の水墨画を見ているような美しさです。
※冬期の寝覚の床は水雪で滑りやすく危険ですので十分お気を付けください。



浦島伝説

寝覚の床、この不思議な名は、晩年をこの地で過ごした浦島太郎の伝説に由来するもの。現世に戻り、諸国をさまよった浦島太郎は、上松の里が気に入って住みつき、毎日、寝覚の床で好きな釣りを楽しみました。床岩の上に祀られた「浦島堂」は玉手箱を開いて煙を浴び、たちまち三百歳になってしまった。その不思議な翁の姿を語り継いでいます。



臨川寺(弁財天) Rinsenji Temple

名勝・寝覚の床を一望する古刹。木曾七福神の1つ弁財天を祀り、街道沿いの7つの古寺を結ぶ霊場にもなっています。境内には芭蕉・子規・山頭火の句碑、浦島太郎伝説の資料館があります。



臨川寺宝物館【C-4】

Rinsenji Treasure Museum

浦島太郎が愛用したと伝えられる釣竿や日用品のほか、古民具・古道具などを展示しています。



松尾芭蕉・正岡子規碑

Monument to Basho Matsuo & Shiki Masaoka

臨川寺境内には「昼かほに昼寝せうもの床の山／芭蕉」をはじめ正岡子規、尾張の俳人横井也右の句碑があります。



寝覚の床美術公園

Nezamenotoko Park

寝覚の床に隣接する美術公園。浦島太郎の伝説にちなんで「時空」をテーマにした屋外彫刻、地球の自転軸のゆらぎまで計算した巨大な日時計のモニュメントなどが展示されています。



懐かしい風景が、あちらこちらに隠れている上松町周辺。
過ぎた日々との出会いを求めて、ぶらり散策。

中山道上松宿

山里らしい町並みに安らぎを覚えます。
時の流れと暮らしのなかで
深い郷愁を覚える路地に、
言いようもない温もりを感じます。
中山道宿場町の歴史から、
木の国、木曾五木の集散拠点として
脈わう今日まで、
幾つもの歳月を重ねる風景。
そぞろ歩くほどに、
くつろぎが訪れる上松町です。



Nakasendo Agematsu Post Town

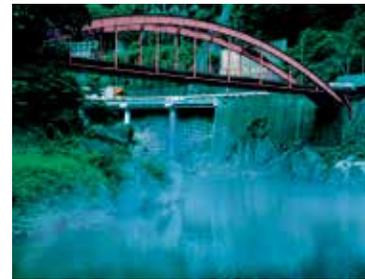
京六十五里、江戸から七十一里。

中山道上松宿を歩く

全長百二十九里、六十九宿を連ねる中山道。
そのうちの十一宿を数える木曾街道にあつて、上松宿は、古くから木曾檜をはじめとする木の故郷として多くの仕事人と旅人を集めた活気と賑わいの宿場でした。町を巡れば昔日を偲ばせる神社仏閣、由緒ある句碑や史跡名勝。江戸が今も蘇る見どころが多彩です。

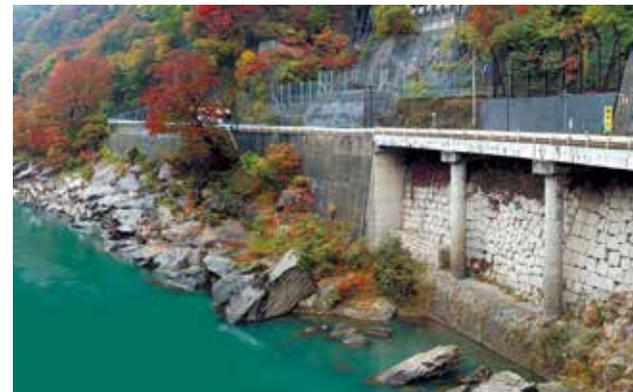


木曾八景 ● 駒の夕照 [B-8]



①木曾八景 ● 棧の朝霞 [A-4]

木曾の棧 [A-4] Kiso no Kakehashi Viaduct
かつては、危ういものゝ代名詞として古くから歌枕にも詠まれ、中山道一の難所と言われた場所。木曾川の絶壁に数百メートルに渡って架けられた藤づるで編んだ棧橋でしたが、現在は旧国道の下の石積みにわずかに街道の面影をとどめるに至っています。



①木曾川と棧 [A-4]



③玉林院 [B-5] Gyokurin'in Temple
木曾家十六代目、木曾義元の二男にあたる玉林が創建したと伝えられる寺。推定樹齢200年の黒松と、明和3年(1766)造営の山門が美しい調和を見せ、天神堂(天満宮)横のシダレザクラは毎年美しい花をつけます。



①松尾芭蕉・正岡子規の句碑 [A-4]
Rock slabs engraved with the works of haiku poets, Basho Matsuo and Shiki Masaoka. 木曾の棧の対岸には芭蕉の「棧や命をからむ 蕨かづら」の句碑が残されており、このほかにも上松町の各所には芭蕉や子規の句碑が点在しています。



④臨川寺 弁財天 [C-4]

赤沢自然休養林 森林鉄道へ



木曾川

あげまつ

③玉林院

八幡宮

天神堂 (天満宮)

上松宿上町

諏訪神社

上松バイパス

⑤寝覚の床

④臨川寺

②上松宿上町 [B-5]

Agematsu Post Town

ひと足、路地に踏み入れるとそこは古い民家が軒を連ねる懐かしい風景が佇み、往時の賑わいを偲ばせています。

⑤木曾八景 ● 寝覚の夜雨 [C-4]

⑥小野の滝

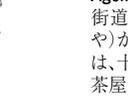
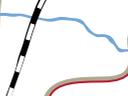
萩原

鹿島神社

神明神社

至中津川

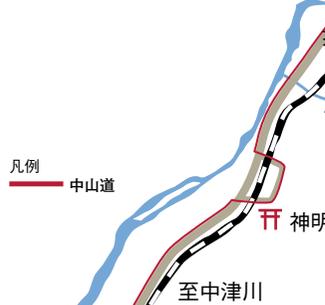
⑥小野の滝 [D-5] Ononoki Falls
中央アルプス木曾駒ヶ岳に源を発し、国道十九号のすぐ脇に流れ落ちる滝。中山道の名所であり、木曾八景の一つ。広重英泉合作の中山道六十九次の浮世絵にも上松としてこの小野の滝が描かれています。



木曾八景 ● 小野の瀑布 [D-5]



⑤木曾八景 ● 寝覚の夜雨 [C-4]



凡例
中山道

木曾 駒ヶ岳



南北およそ九十キロの中央アルプス(木曾山脈)の主峰、標高二、九五六メートルの木曾駒ヶ岳。上松町は美しき高峰への玄関口にあたり、険しい岩肌、切り立つ山容は、のどかな野辺とは対照的に神々しい異彩を放ちます。ぐるり三六〇度、幾重もの山ひだの間に間に深く重なる里山の季節の移ろいも美しく、岳と山の響きあいに旅の感動は一層高まります。



野尻集落から木曾駒ヶ岳方面を望む



駒ヶ岳と中岳



駒ヶ岳夕照

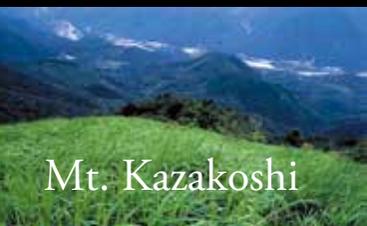


晩秋の中央アルプス

風越山

木曾八景●風越の青嵐

木曾駒ヶ岳の麓にある、「風越の青嵐」は、木曾八景のひとつに数えられている。かつては牧草を育てるため、住民に親しまれてきた里山。頂上は青々とした草に覆われ、カヤの平原を風が波のように駆け上っていく風景も、山好きにとっては旅の一興です。



Mt. Kazakoshi



険しく峻かな山容、
 緑と岩の印象的なコントラスト、
 可憐な高山植物の詩。
 峰に立つ者だけに与えられる至宝の自然が
 今日も木曾谷に威光を放っています。

木曾駒ヶ岳、宝剣岳、空木岳
 迫り来る高空の峰、
 中央アルプスを歩く



The Central Japan Alps

空木岳 [E-6] (標高2,864m)
 中央アルプスのほぼ中間に
 位置し、木曾駒ヶ岳に次ぐ
 高峰。堂々とした山容は、花
 崗岩の白い砂礫とハイマツ
 のコントラストも美しく、深田
 久弥氏の日本百名山に数
 えられています。

- 凡例**
- コースタイムポイント
 - 登山道コース
 - 登山道コース(難路)
 - 登山道コースでない小道
 - 国道・一般道
 - バスルート
 - 線路
 - 市町村界
 - コースタイム
 - 通過に注意が必要
 - コースを譲り廻り所
 - 山小屋(通年営業)
 - 山小屋(期間営業)
 - 避難小屋など
 - 公共宿泊施設
 - キャンプ場・营地
 - 水場
 - 記念碑
 - お花畑
 - 滝
 - 駐車場・スペース
 - 登山コース
 - 登山道コース(難路)
 - 登山道コースでない小道
 - 国道・一般道
 - バスルート
 - 線路
 - 市町村界
 - コースタイム
 - 通過に注意が必要
 - コースを譲り廻り所
 - 山小屋(通年営業)
 - 山小屋(期間営業)
 - 避難小屋など
 - 公共宿泊施設
 - キャンプ場・营地
 - 水場
 - 記念碑
 - お花畑
 - 滝
 - 駐車場・スペース
 - 温泉
 - 神社
 - 寺院
 - 名所
 - 郵便局
 - 学校
 - 警察署・交番
 - 町村役場
 - 発電所・変電所
 - 信号機
 - 国道番号
 - 県道番号
- ※登山情報は事前にご確認下さい。
 ※鳥獣図の作成にあたっては、国土地
 理院発行の数値地図の50mメッシュ及
 び「ガンマール3D」を使用しています。



風越山 [D-6]
 (標高1,699m)
 頂上部には見晴らしの良いカ
 ヤ野原が広がります。西に御
 嶽山、上松町を眼下に木曾
 谷一帯を望めることから、ワ
 ンデイハイクの山として愛好
 者が登山を楽しんでいます。



三ノ沢岳 [C-7]
 (標高2,847m)
 宝剣の南、極楽平から
 中央アルプスの主脈を
 別れ、木曾側への尾根
 を辿った位置にある。南
 ア唯一の独立峰。西千
 畳敷、三ノ沢カールを
 従え、背後に宝剣岳、
 駒ヶ岳、南に空木岳を
 望む静かな花の山とし
 て人気があります。



宝剣岳 [C-7] (標高2,931m)
 最高峰は三角形で、尖った拳のよ
 うな屹立した岩稜が印象的
 です。西側の木曾谷からは
 角度のある登坂が伸
 びており、東側の駒ヶ根高
 原にはロープウェイで降り
 立つことができます。



クモマグサ イワベンケイ チングルマ ツガザクラ コマウスユキソウ コマクサ イワツメクサ チシマガキヨウ



木曾古道(信濃路自然歩道) [D-5]
Kiso Kodo (Ancient Kiso Road, aka. Shinanoji Nature Trail)

中山道が整備される以前から交通路として利用された古代のバイパス。木曾駒ヶ岳山麓を南北に延び、山間の集落を辿る道すがらには「木曾古道」の道標があります。



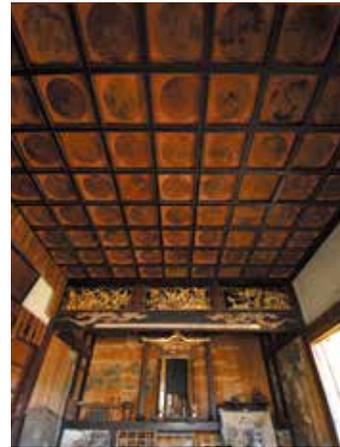
木曾古道(信濃路自然歩道) [D-5]
Kiso Kodo (Ancient Kiso Road, aka. Shinanoji Nature Trail)

寝覚の床や小野の滝、東野阿弥陀堂、風越山へのハイクに木曾古道は最適。のんびりとした風情、林道での森林浴も楽しみです。



①駒ヶ岳神社 [C-5]
Komagatakejinja Shrine

木曾駒ヶ岳は古くは信仰の山で、山頂には駒ヶ岳神社の奥院があります。上松町には里宮があり、奉納される太々神楽は有名です。



②東野阿弥陀堂 [D-5]
Tono Amidado Temple

上松町東野地区の集落の中ほどにあるお堂で、木曾谷で最も古い建築物と言われています。堂の天井には、山村代官おかかえの絵師・池井祐川が描いた花鳥の絵があり、その精緻な筆運び、鏡板内陣36枚、外圧巻陣72枚の枚数は圧巻。木曾古道散策の途中に見学するのもおすすめです。

のんびり歩く 木曾古道

中山道が開かれるその昔から、木曾谷を貫いていた中世の道が「木曾古道」。流れに惑わされる木曾川沿道を避け、なだらかな麓をなぞるように、里から里へつづく道は、山々の眺めを楽しみ、季節の声に耳を澄ませます。どこか長閑な余韻がありました。今、その細道は御嶽山、乗鞍岳を仰いで歩く散策路。トレッキングが楽しみな道程です。



ケルンバット [D-5] Kernbut

木曾駒ヶ岳の東側に走る上松断層。この断層に沿った地形に、ケルンバットとケルンコルがあります。ケルンバットは断層の破碎帯に発生する小高い頂、ケルンコルは断層の鞍部で谷状の地形で、木曾古道はケルンコルを利用して見学しています。上松町の東部は日本でも有数のケルンバット地帯です。(上松町史自然編より)





駒ヶ岳神社例祭 [C-5]
Komagatakejinja Shrine Festival

木曾駒ヶ岳頂上に奥院がある駒ヶ岳神社の例祭。麓の里宮において行われ、国の選択無形民俗文化財に指定される「太々神楽(だいだいかぐら)」を奉納します。13座の舞台上で構成される太々神楽は、400年以上前から伝わる奉納の舞で、地区の家々に一子相伝で伝えられており、門外不出とされています。舞台では、剣を手にした3人の舞手による厳かな「三剣の舞」や、白い天狗の面を付けた4人が高々と舞う「四神五返拜」の姿が有名で、迫力ある瞬間を見ようと毎年多くの観客・カメラマンが訪れます。
<毎年5月3日開催>



Suwajinja Shrine Festival (Agematsu-sai)

諏訪神社例祭(上松祭) [C-5]
上松町の諏訪神社と若宮八幡宮の例祭で、地歌舞伎と神楽神輿のおねりが、旧中山道の道中を中心盛大に執り行われます。八幡宮境内で行われる宵祭りには、「上若連」と呼ばれる氏子の若連中による「芸さらし」といわれる地歌舞伎、獅子狂言が演じられます。翌日からは、町内を獅子舞が悪魔祓いをして廻ります。諏訪神社本殿から出発し、八幡宮で「泊し、翌日再び諏訪神社へと戻る神輿は、夜には御輿渡りや神楽の押し合いが繰り広げられます。上松では一番大きなお祭りであり、祭りの期間中は、笛や太鼓の音が響き、町は祭り一色に染まります。(九月上旬)



晴れと
心の伝承。

神秘に息をのみ、
熱気に目を奪われる感動。
一瞬の光景は、永遠の記憶になって
語り継がれていきます。
舞や踊り、ひとつの仕草に込められた歴史の奥義。
一挙手一投足に秘められた古式の祈り。
天下泰平、豊年満作、感謝の気持ち、大事な節目を
厳かに美しく飾るさまざまな祭事が、
感動を呼び覚まします。

祭



Timber sledge drag race

全国木馬引き大会
木馬は、かつて山から木材を下す運搬法として活躍していたソリです。往時の姿を伝えるため、毎年秋ごろに上松駅前でも木馬を引く速さを競う大会が行われます。総重量は三〇〇kgにもなる丸太五本を載せた木馬を力自慢達が引っ張る様は大迫力です。



Ogawa Wakamiyajinja Shrine Festival

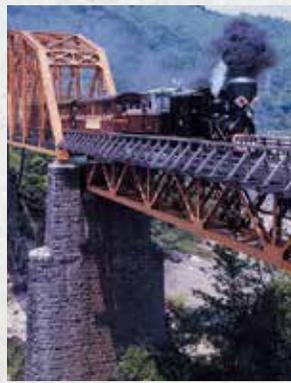
小川若宮神社例祭 [C-5]
上松町島の小川若宮神社の例祭。伝統的な獅子狂言が四月下旬に三日間にわたって奉納されます。狂言は地元若連中による熟演です。特有の獅子狂言「葛の葉」は、母と子の別れの辛さを演じるもので、町の無形文化財に指定されています。「葛の葉」では、「子清明」を授けた後に安倍保名(安倍晴明の父)に正体が白狐であることを知られた葛の葉が「恋しくは尋ね来てみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉」の恨み詩を子である清明をあやしむながら戸板に書き付け、別れ去っていく様子が演じられます。戸板に詩を書き付ける際、獅子頭に筆を加えて行われます。小川若宮神社の境内での奉納は、最終日の午後です。

木曾森林鉄道と 鬼淵鉄橋

Kiso Forest Railway Train & Onibuchi Railway Bridge

鬼淵鉄橋は大正二年に、当時の中央線上松駅から木材を貨車輸送するために架けられました。全長九十三・八メートル、トラス構造で、八幡製鉄所の鋼材を使用し、大阪の横河橋梁製作所が手がけたものです。設計は三根寄能夫。原料・技師も含め、初の純国産鉄橋といわれます。鉄橋の西側で小川線・王滝線の軌道が分岐し、特に王滝線は昭和五十年五月の木曾森林鉄道廃線（国内最後の森林鉄道）まで活躍しました。最盛期の木曾森林鉄道は木材だけでなく、人や物資の流通も担う木曾の大動脈でした。

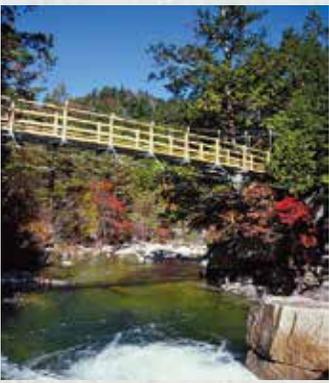
その後の鬼淵鉄橋は車道橋として活用され、永年にわたって地域の交通を支え続けました。（上松町史歴史編より）



姫瀧悲話伝説

Legend of the Himebuchi Tragedy

高倉以仁王の御子・姫宮（十五歳）は、宇治の戦いで逃げ落ちた父が木曾谷に居ることを聞きつけ、追手の難をかわしながら、京から一人逃れてきました。ある時は村人にかくまわれ、またある時は後難を恐れた村人に見放されながら、必死に逃げるもついに小川の里で姫は見つかりてしまいます。姫の持つ香袋の麝香が追手に嗅ぎ付けられてしまったのです。いよいよ道も果て、深い淵を前に逃げるすべをなくした姫は、逃げ来る途中で見た京に似た田園風景を思い出し、懐かしい家族を想い、田植の真似をしながら田植歌を唄います。そして、その清らかな声が



大宮神社

Omijinja Shrine

天照大神 伊弉丹尊 底筒男神を祭神に祀る大宮神社では、毎年七月の中旬の土曜日・日曜日に例祭が開かれます。町内のおよそ三〇〇戸を氏子に持ち、若連によって各戸の悪魔払いが行われ、しき拾二当お七などの獅子神楽が奉納されます。また大宮神社は縄文人の遺構が発見されたことでも名を馳せます。昭和五十九年（一九八四）、大雪で崩壊した拝殿を再建築の歳、拝殿前後で縄文時代早期の押型分土器片と石器が発見されました。深い山中で遺構が発掘されることは非常に稀なことです。

五社神社

Goshajinja Shrine

五社様と親しまれる五社神社は、天明年間（七八一―七八八）、時の材木奉行・日々野源八が、木曾山川の安全と、ここに働く柚や日雇にケガや事故が無い事を願って建立されたといわれます。五社とは、御岳大権現（地元木曾地方の守護神）、熱田大御宮（当時木曾を治めていた尾張藩主の居住地名古屋にある神社）、天照大神（伊勢神宮御神木を木曾より献上）、三嶋大神（東海道三嶋宿を本社とする山の神）、

消えるか消えないうちに、自ら淵に身を投げ、若い生命を絶つたのでした。真紅の河原サツキが咲く、春の夕暮れ時のことでした。

原畑用水

Harahata Canal

寛永年間、上松村の名主・塚本惣兵衛は、水路方面の地主・大戸市之丞とともに新田開墾に向けて滑川から原野へ疎水を計画します。しかし決潰等の恐れから反対に遭い、ついには御陣屋の防火用水という触れ出しで工事を進めました。困難を極めた水路延長約三キロの大工事は、およそ六カ年に及びました。用水は町部、見婦、寝覚各地区に上水道ができる昭和三十三年まで飲用水や防火用水に利用され、現在もお各各方面に使われています。

不思議な浮石

Mysterious Floating Rock

その昔、木曾の棧から寝覚の床まで、行ったり来たりする不思議な石がありました。この石が流れると決まって不幸な事が起き、それを聞いた旅の僧が一首歌を詠んでこれを鎮めました。短冊には「波計や

水天宮（筏師・船頭の安全を祈る水の神）を指します。なお上松材木役所に祀られていた五社神社でしたが、明治四年（一八七二）材木役所の廃止を期に、上松町の鎮守諏訪神社の境内に移転されました。

八幡宮

Hachimanju Shrine

本殿は江戸中期の代表的な社殿建築で、上松町では番古い神社です。毎年九月下旬には、幕末の頃、三河の神田徳七という人物から伝えられた「芸ざらい」と呼ばれる獅子狂言が若連によって上演されます。狂言の女方はすべて獅子が演じ、台本には十八の演目があります。

上松の御陣屋

Goin'ya of Agematsu

材木役所は御陣屋と呼ばれ、檜の丸太を使った芝手を築き、入口に大砲を備える堅牢な陣地になっていました。山方一切の業務を取り上げた山村氏への尾張藩の警戒、あるいは木曾谷住民全般に対する示威とされる陣屋と推察され、正面玄関の七尺（二三メートル）の高土手には「御陣屋の松」と呼ばれた松が植えられていたとされます。

蛙岩と 大蛇の伝説

Legend of Kawazumiwa (Frog shape rock)

弥生の糸につながれて浮いたる石の流れこそせぬ」。以来この石は動かず、村に不幸な出来事も無くなりました。鬼淵の上流には今もその石が残っているそうです。

大蛇が竜に出世するためには山で千年、海で千年の修行が必要です。むかし、御岳山に千年の修行を無事に済ませた一匹の大蛇が住んでおりました。木曾川を通って海に出る必要がありましたが、困ったこと上松まで来ると大きな蛙が河原で待っていて、どうしても通してくれません。仕方がないので、大蛇は海に行くときには竜神をお願いをして、たくさん雨を降らせ大水にしてもらい、蛙の目に触れないように濁った水の中を潜って木曾川を下って海に出るようになったそうです。蛙岩が隠れると木曾川が氾濫し、正島の堤防を越えて浸水すると伝えられています。実際、昭和初期には正島地区のなだらかな土地が水没したことが記録されています。

上松 旅の宿

宿泊料(目安/1泊2食、1名当たり) 民宿:8,000円～ 旅館:10,000円～
位置図:折込マップ「上松町の観光ガイド」参照



桧温泉旅館【A-4】

TEL.0264-52-2276
●定員/35
●部屋数/9
●営業期間/通年



木曾殿山荘【E-6】

TEL.0573-72-4380
●定員/80
●営業期間/
7月1日～10月上旬
●090-5638-8193



田政旅館【B-5】

TEL.0264-52-2053
●定員/50
●部屋数/12
●営業期間/
1月4日～12月30日



駒ヶ岳頂上木曾小屋【C-7】

TEL.0264-52-3882
●定員/100
●営業期間/
GW-6月中旬～11月3日



民宿 西小川【C-4】

TEL.0264-52-4009
●定員/18
●部屋数/6
●営業期間/通年



玉乃窪山荘【C-7】

TEL.0264-52-2682
●定員/100
●営業期間/
7月1日～10月体育の日
(9月・10月は土日・連休のみ)
●090-4181-8573



ねざめホテル【D-5】

TEL.0264-52-2245
●定員/85
●部屋数/20
●営業期間/通年



民宿 さわぐち【C-3】

TEL.0264-52-3422
●定員/50
●部屋数/13
●営業期間/通年



敬神キャンプ場【C-6】

TEL.0264-52-2547
●定員/30
●テント/50
●営業期間/
通年 要予約
[休業中]



民宿 去来荘【D-2】

TEL.0264-52-2602
●定員/30
●部屋数/7
●営業期間/
赤沢開園期間中
[休業中]



木工芸品 Wooden Crafts

木曾産の良質な木材を素材に、天然の木目を生かした器、椀、鉢、盆、茶筒などの工芸品は日常使いの道具として、また旅のお土産として人気を集めています。



木製品 Wooden Products

水気や湿気に強いヒノキ、サワラ、コウヤマキなどはそれぞれの特性と美しさを活かしてお風呂用品や樽などに加工され、木曾の特産になっています。

朴葉巻 Hoba Maki

香り豊かな朴の葉で、小豆の入った米粉のお餅を包んで蒸した木曾ならではの初夏の味。



伝承の手技
清らかな第一印象、温かい手触り。伝統の技、木の生命は、使い込むほどに愛おしく。豊かな森、良質な木材は、山に生きる人々の知恵をくすぐり、卓越の技を引き出しました。木工に代表される伝統工芸の逸品、匠の作は、お土産に、調度品にぜひ選びたい上松町の宝ものです。



古里の味わい

この味が堪らない、この食材でしか生まれない。丹精込めて作られる木曾の旨さは、知恵と工夫、伝承と精進のたまもの。一度食べたら忘れられない、不思議な魅力の世界です。里山は美味しさを季節毎に育みます。日々の暮らしは、かけがえのない旨さを生み出しました。祖母から母へ、母から子に。親方から弟子へ、親父から跡取りへ。大切に受け継がれた郷土の味は、今もしっかり健在です。



五平餅 Gohei Mochi

ご飯を御幣の形のように串に握りつけ、クルミ・ゴマなどの入ったタレでいただく。炭火で香ばしく焼きあげた木曾の名物。

手打ちそば Soba Noodles

日本を代表するそば処、木曾谷。風味豊かな地粉と手打ちの技から生まれる絶妙な旨さに舌鼓。

そばまんじゅう Soba Manju

純そば粉と大和芋で練りあげた独特の風味とあっさりとした甘味。



季節の食材を使ったあたたかいお弁当はいかがですか。



おにぎり弁当



赤沢遊歩弁当 幕の内

上松宿のお弁当

〇〇個からご予約承ります。発注は五日前までにご利用いたします。お弁当の詳しいお問い合わせは、観光協会へご連絡ください。

ほおばる会
Box Lunch of Agetanusu Town

旅のおもひで
～あなたの旅のいちページ～

